

造林実験地設定カード

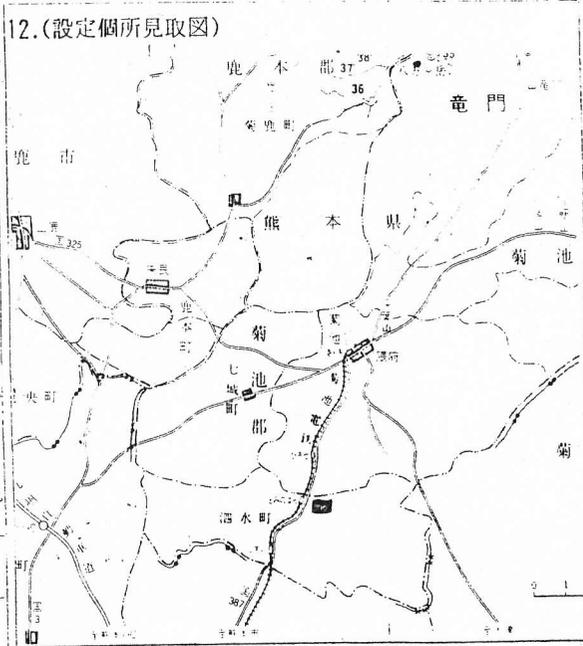
1 分類指示 2 分類番号 7

菊池 管林署 No. 9

3. 実験項目 造林の初期管理における省方法。
(スギとヒノキの発根形態別成長試験)
(苗木試験) 4. 実験目的

さし木穂作り等の過程で人為的な所産を施すことにより二段根のない多枝根のように、より実生苗に近い苗木養生し、初期成長の促進、下刈作業等の省力につながる技術体系を開発する。

5. 担当区名 菊池植苗事業所 国有林 35 林班 107 小班
 設定者(官職) 農林水産技師(氏名) 三村 孝 泰
 面積 積量 (23) 25 m²
 設定年月日 昭和 56 年 月 日 終了年月日 昭和 56 年 月 日



6. 実験の実施方法
 (1) 供試材料 スギ荒穂
 ① クローン系統別に検討を行なう。4クローンとする。
 ② 1クローン当たり240本とする。
 ③ 採穂母樹の樹令等同一傾向で採穂。
 (2) 定植方法
 ① 穂作り
 ア 水浸等は通常通り
 イ 下枝の除去は手で剥き取る
 ウ 穂作り長さは普通とあり

エ 切口は通常斜切返しとする。
 オ 次の2法に分けて処理する。
 (ア) 2法... 穂の根元から枝のついていない部分に7割の穂(穂)にナイフで縦に3cm程度の長さにスズを60度で削りつける。
 (イ) 3法... 2法に準じてナイフで斜め上方からスズを60度で削りつける。削りつけた穂は直ちに次の2法に分けて定植処理を行なう。
 ① 輪法... オキシロン輪刺(切傷部分)を剥き取り(剥き)部分を削りつける。
 ② 剥法... 直ちにオキシロン1000PPM液を用いて削った赤土がロケットになる。

7. 植付	新植下 昭和 年 月 日	11. 地
更	樹種 スギとヒノキ付 960本	
新	苗木	
ha 当り	植栽本数 本/ha	
8. 幼令	木	12. 況
9. 下刈	つる切伐	
10. 保	除枝間 打伐	
10. 実験地の現況		

方位	SW	標高	70 m	
傾斜	平均 40度	基岩	火山灰堆積地	
土性	植壊土	気	年平均温	16°C
			年最高温	
土深	深	象	年最低温	
			年降水量	1,500 ~ 2,000 mm
堅密度	軟			
湿度	潤			
土壌型				
土酸	壤度			

13. 設定時の植生
 14. その他

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験管林署運営要綱2、(3)、(イ)、により大別し、更に分類番号欄で細別する。
 2. 設定箇所見取図は、2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
 3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
 4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

スギ之苗木の莖根の態別成長試験(育苗試験)

54.2.20

オキシペロン 粉剤
" 液剤

粉剤 - 下口汁 = 粉法 A法 = 傷縦1
下口汁 (200cc 液汁 4cc) = 液法 B法 = 傷横0

プロット名	処理法	略号	之L付本数	プロット位置
梟八女3号	A法 粉法	1-A-粉	60	1
"	" 液法	1-A-液	60	9
"	B法 粉法	1-B-粉	60	5
"	" 液法	1-B-液	60	13
梟致珠号	A法 粉法	2-A-粉	60	2
"	" 液法	2-A-液	60	10
"	B法 粉法	2-B-粉	60	6
"	" 液法	2-B-液	60	14
梟藤津14号	A法 粉法	3-A-粉	60	3
"	" 液法	3-A-液	60	11
"	B法 粉法	3-B-粉	60	7
"	" 液法	3-B-液	60	15
アヤスギ	A法 粉法	4-A-粉	60	4
"	" 液法	4-A-液	60	12
"	B法 粉法	4-B-粉	60	8
"	" 液法	4-B-液	60	16

見取図

プロット位置図

(4)
(3)
(2)
(1)
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

960坪

通路

造林実験地設定カード

3. 実験項目		造林の初期管理における省力法。 (スギとヒノキの発根形態別成長試験) (杯地試験)		4. 実験目的		スギとヒノキの発根形態と林地における初期成長の関係を明らかにし、下刈等保育経費の軽減をはかる技術体系を究明する。	
5. 設定	担当区名	水源 外 / 担当区		国有林 小班	字	国有林 林班	小班
	設定者	(官職) (氏名)		面積			
	設定年月日	昭和 年 月 日		終了年月日	昭和 年 月 日		
6. 実験の実施方法	1. 供試材料 アヤスギ { 多段根苗 100本 一段根苗 100本 普通苗 100本			没すことはとけるようにする。 (2) 配置については初期成長と比較することから、均等にするため1本毎に番号を付して植付せる。			
	2. 植付本数 300本 苗当り 3,000本 3. 植栽方法及び配置 (1) 植付は普通植とし、上部の根が極端に下方に埋			4. 調査事項 (1) 成長量調査 植付時 5月末、7月末、9月末、11月末			
7. 更新	植付	新植 昭和 年 月 日 天下I		11. 方位	標高 m		13. 設定時の植生
	樹種				傾斜	平均度	
8. 施肥	苗木			土	土性	気	年平均気温
	加植当り数	本/ha					
9. 保育	幼壮成	令木		土	堅密度	象	年最低気温
	下刈						湿度
10. 実験地の現況	つる除	切伐		土	土壌型	象	その他
	枝間	打伐					

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験営林署運営要綱2.(3)、(4)、により大別し更に分類番号欄で細別する。
2. 設定箇所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業簿に記入する。

3. 実験項目 造林の初期管理における植方法
(スギ・ヒノキの発根形態別試法試験)
(林地試験)

4. 実験目的

5. 設 定

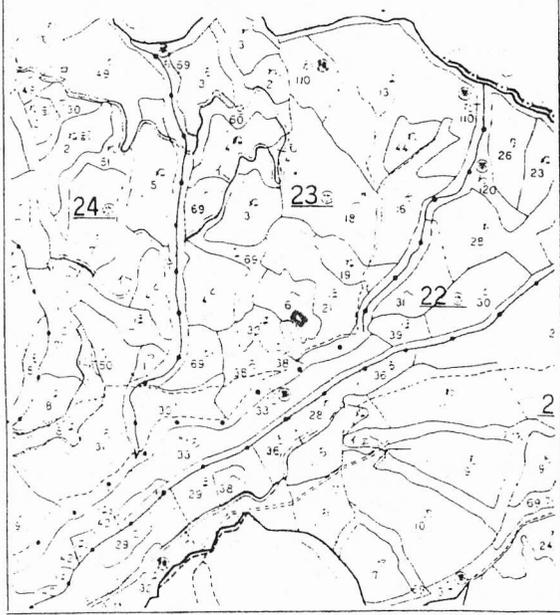
担当区名	道南担当区	国有林班	字木護 国有林 23 林班 へ 小班
設定者	(官職) 森林水産事務官 (氏名) 林 武 徳	面積	積量 0.10 隔
設年 月 日	昭和 54 年 3 月 日	終年 月 日	昭和 59 年 月 日

6. 実験の実施方法

1. 供試材料
既成苗木による供試
53年度のみ現在養成されている苗木を見かけ上から、一段根(普通苗)と多段根に分類し、各々100本当供試する。この場合可能な限り同一フローレン又は苗圃を用いる。

7. 更 新	植 付	新植 昭和54年3月 日 天下一	11. 地 況	方 位	NE	標 高	730 m
	樹 種	スギ 3,57 隔 ヒノキ 0,80 "		傾 斜	平均 23 度	基 岩	安山岩類
	苗 木			土 性	壤 土	気	年平均気温 15°C
8. 施肥	ha 当り 植栽本数	スギ 3,000 ヒノキ 3,000 本/ha	土	深 度	中	年最高気温	
	幼 木 令 成			堅密度	軟	年最低気温	
9. 保 育	下 刈	54.7 57.7 55.7 58.7 56.7 59.7 6回	境	湿 度	潤	年 降 水	2,400 mm
	つ 除			土 壤 型	B D		
	枝 間			土 壤 度		象	
10. 実験地の現況							

12. (設定個所見取図)



13. 設定時の植生

14. その他

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験管林署運営要綱2. (8), (9), により大別し更に分類番号欄で細別する。
2. 設定個所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
4. 成木施肥実験の場合高林令のための施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

造林実験地位置図および設定図

1.分類

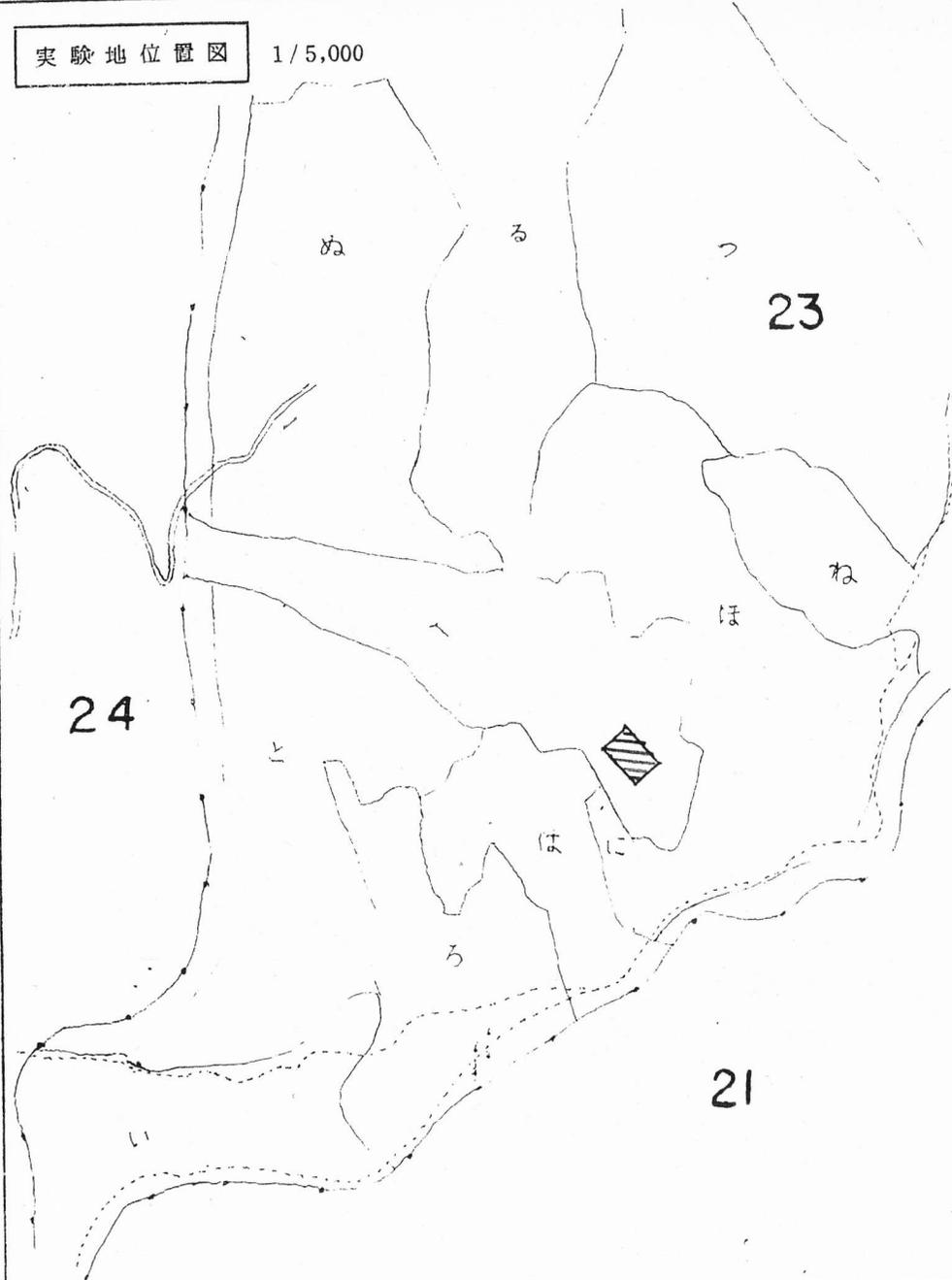
指示

2.分類別
番号

7-1

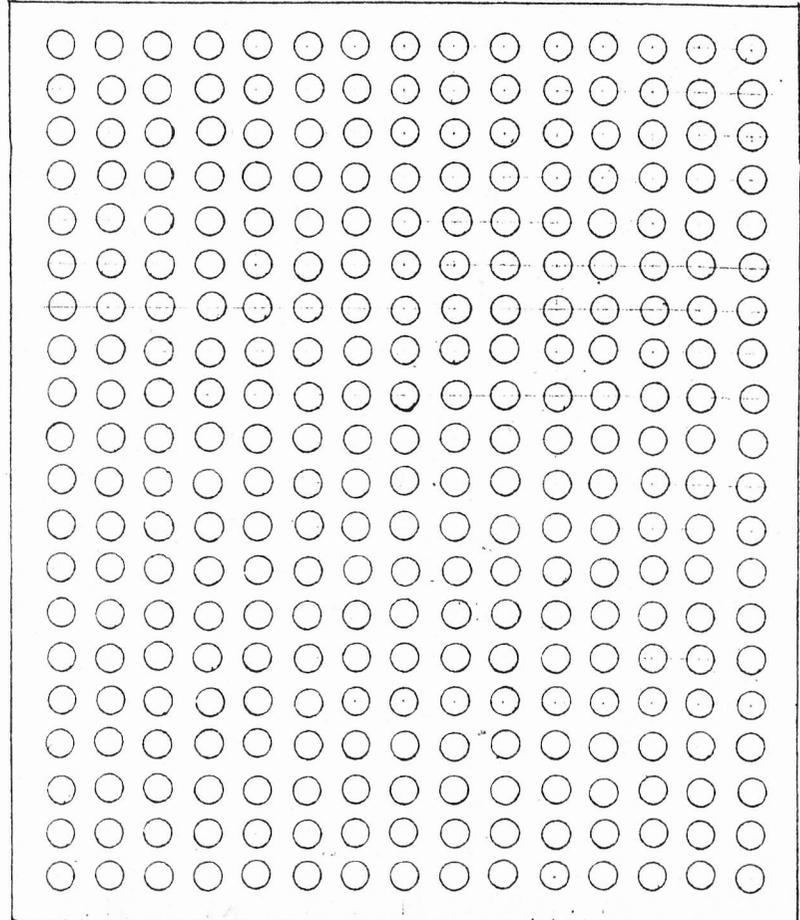
実験地位置図

1/5,000



実験地設定図

1/1,000



アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

造林実験地設定カード

菊池 営林署

No. 10

1 分類

指示

2 分類別号

クーノ

3. 実験項目		造林の初期管理における省力法 (スギとシラカシの発根形態別成長試験) (林地試験)		4. 実験目的							
5. 設定	担当区名	水源担当区		国有林	有林	小班	字阿蘇深葉国有林 小班 屯				
	設定者 (官職)	農林水産技術官		(氏名)	清藤 勝富	面積	0.08 ha				
	設定年月日	昭和55年3月7日		終了年月日	昭和59年 月 日						
6. 実験の実施方法	1. 供試材料 アサギ 多段根 40本 一段根 40本 県産津14号 " 40 " " 40 " 県産珠3号 " 20 " " 20 " 普通苗 100本 2. 植付方法 隔当り 3,500本 本数 300本										
7. 更新	植付	新植 昭和55年3月7日 天下1.1		11. 方位	北 東		標高	920m			
	樹種	スギ 3.42段 1.1キ 0.38段			傾斜	平均 15度		基岩	火山灰		
新	苗木			土性	植塚土		年平均温	10°C			
	ha当り植栽本数	スギ 3,500 ヒノキ 4,500 3,000 本/ha			土深度	中		年最高温	30°C		
8. 施肥	幼令			堅密度	軟		年最低温	-10°C			
	成木				湿度	適		年降水量	2,400mm		
9. 保育	下刈	5.5.7 5.6.7 5.7.7		土壤型	B20		土壤酸度				
	つる除										
10. 実験地の現況	枝打										
	伐間										
12. (設定箇所見取図)											
13. 設定時の植生											
14. その他											

- (記載要領)
1. 分類欄は造林実験営林署運営要綱2、(3)、(イ)、により大別し、更に分類番号欄で細別する。
 2. 設定箇所見取図は、2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
 3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業簿に記入する。
 4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判断する範囲で記入する。

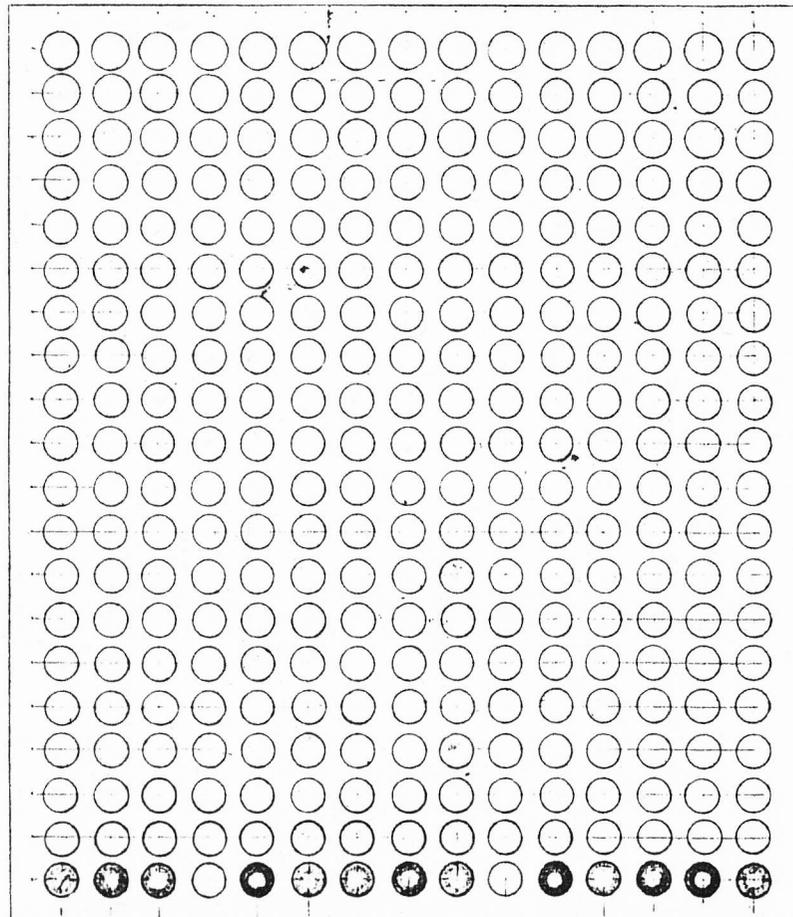
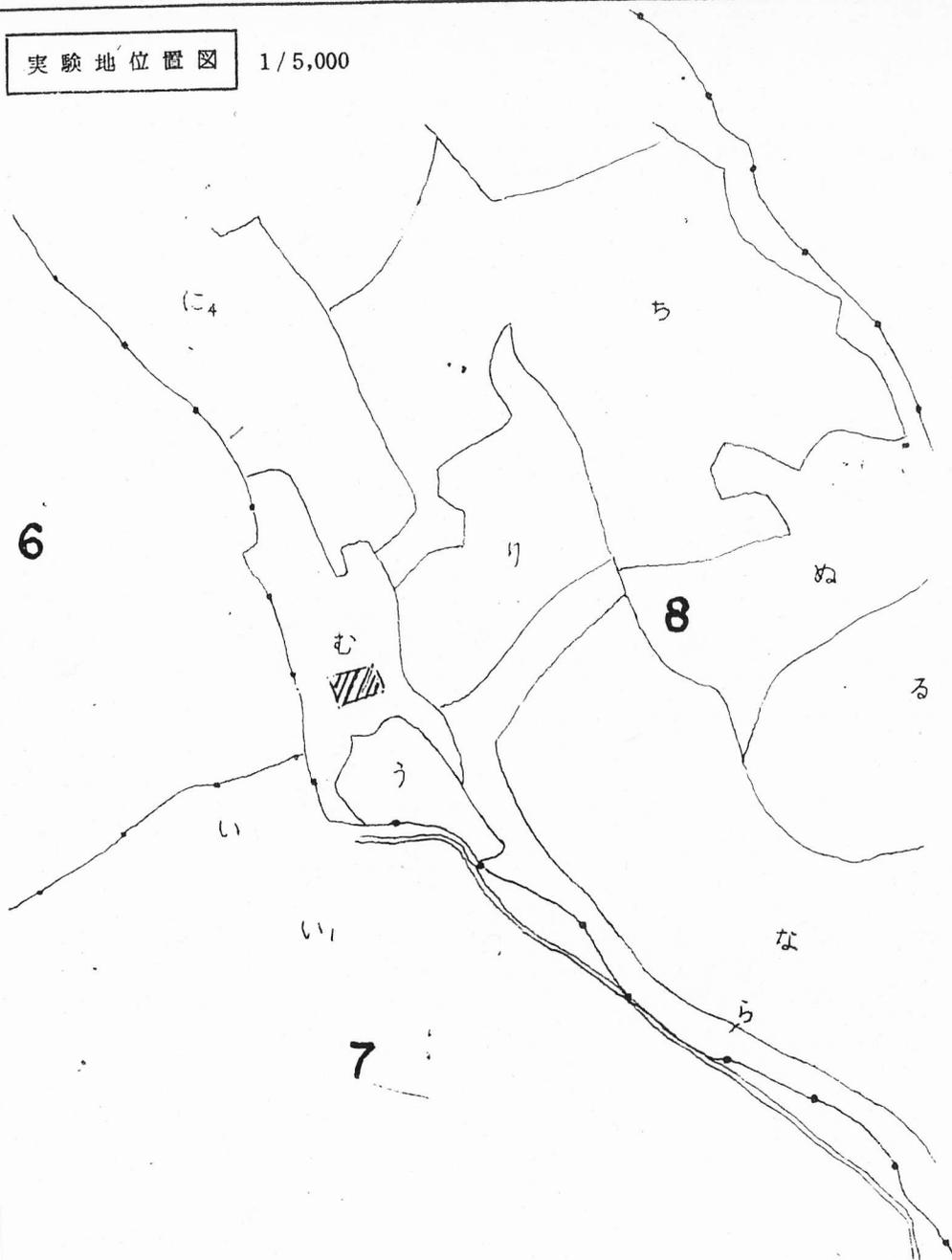
造林実験地位置図および設定図

実験地位置図

1/5,000

実験地設定図

1/1,000



アヤスギ (葉) 1/5 (20)	アヤスギ (根) 1/5 (20)	普通苗 (葉) 1/5 (20)	果腹津 (白) 14号 1/5 (20)	果腹津 (緑) 14号 1/5 (20)	普通苗 (葉) 2/5 (40)	アヤスギ (葉) 2/5 (40)	アヤスギ (根) 2/5 (40)	普通苗 (葉) 4/5 (80)	果腹津 (白) 14号 2/5 (80)	果腹津 (緑) 14号 2/5 (80)	普通苗 (葉) 6/5 (120)	果腹津 (白) 14号 6/5 (120)	果腹津 (緑) 14号 6/5 (120)	普通苗 (葉) 8/5 (160)	果腹津 (白) 14号 8/5 (160)	果腹津 (緑) 14号 8/5 (160)	普通苗 (葉) 10/5 (200)
-------------------	-------------------	------------------	----------------------	----------------------	------------------	-------------------	-------------------	------------------	----------------------	----------------------	-------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------

3. 実験項目 (造林の初期管理にありする省力法 (スギをシホ育の発根形態別成長試験) (林地試験))

4. 実験目的

5. 担当区名 水源 担当区 国林 有林 林班 字 阿蘇 深菜 国有林 林班 リ 小班

設定者 (官職) 農林水産 技官 (氏名) 清蔵 勝富 面積 積量 0.10 陌

設定年月日 昭和 56 年 3 月 日 終年月日 昭和 59 年 月 日

6. 実験の実施方法

1. 供試木

品 種	多段根	一段根	計
アヤスキ	25 本	25 本	50 本
栗竹田 3号	25	25	50
栗阿蘇 2号	25	25	50
栗日田 20号	25	25	50
普通苗			25

2. 植付方法 普通植 陌当り 3,000 本

3. 植栽木数 225 本

7. 植付 新植 昭和 56 年 3 月 日

樹種 スギ 4.17 陌 ヒノキ 0.26 陌

苗木 ha 当り スギ 3,500 本/ha ヒノキ 4,500 本/ha

8. 施肥 幼林成 木木木

9. 下刈 54.7 57.7 58.7 SP.7 女回

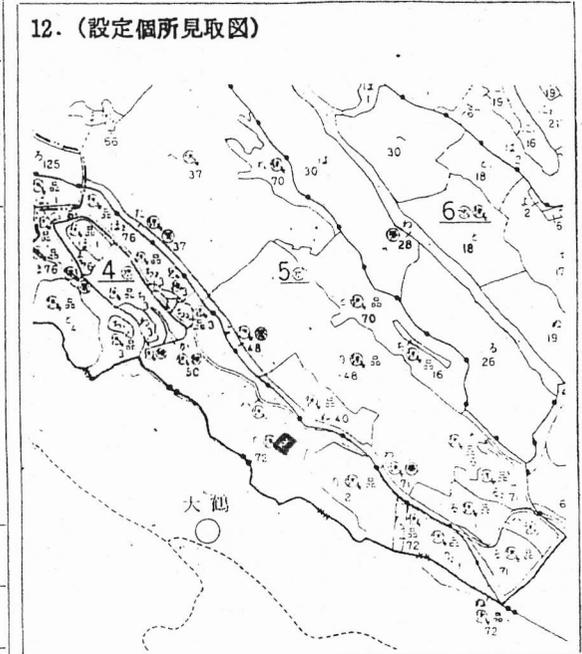
つる切伐 枝間 打伐

10. 実験地の現況

11. 方位 E 傾斜 平均 5 度 土性 壤土 深度 中 堅密度 軟 湿度 潤 土壌型 B D 土壌酸度

標高 290 m 基岩 輝石安山岩 安山岩類

気象 年平均気温 年最高気温 年最低気温 年降水量



13. 設定時の植生

14. その他

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験官林署運営要綱, 2. (3), (4), により大別し更に分類番号欄で細別する。
 2. 設定個所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
 3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
 4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

成長量調査記録カード

1. 分類 指示 2. 分類別号

3. 実験項目		造林の初期管理に資する省力法 (ニラミレ木苗の根際整地別成長試験)					4. 林小班	5. 面積	6. 樹種	7. 品種	8. 標本数	9. 設定年月									
							010	スギ	スギ	300本	55年3月										
調査木	区分	肥大成長量										上長成長量									
		胸高(根元)径					成長量					樹高					成長量				
		設定時	S	S	S	S	S	S	S	S	S	設定時	S	S	S	S	S	S	S	S	S
	55年11月	56年11月	57年11月	58年12月	59年月	59年	59年	59年	59年	59年	55年11月	56年11月	57年11月	58年12月	59年月	59年	59年	59年	59年	59年	
1	アヤスギ1級根	90本																			
2	(0.4)	(10.5)	(21.3)	(40.0)	(53.8)	(45.4)					54.8	62.4	105.3	148.3	188.2					133.4	
3	アヤスギ2級根	40本																			
4	(0.1)	(11.2)	(22.7)	(40.6)	(55.9)	(46.8)					61.3	74.0	110.4	145.3	189.8					128.5	
5	栗葉津14級根	40本																			
6	(0.8)	(10.4)	(22.8)	(41.7)	(55.1)	(46.3)					60.3	76.1	105.2	148.2	204.5					144.2	
7	栗葉津14級根	40本																			
8	(0.5)	(11.0)	(25.9)	(44.7)	(57.6)	(51.1)					57.7	76.9	109.6	160.7	218.5					160.8	
9	栗葉津3号1級根	20本																			
10	(2.8)	(9.4)	(21.3)	(37.6)	(50.7)	(43.1)					54.8	74.8	120.0	165.5	207.3					157.5	
11	栗葉津3号1級根	20本																			
12	(0.6)	(11.0)	(25.1)	(44.2)	(58.8)	(50.2)					57.1	80.7	134.3	180.9	250.2					191.1	
13	普通苗	100本																			
14	(0.7)	(7.4)	(14.1)	(22.6)	(41.7)	(34.8)					40.7	51.9	98.6	138.7	208.4					167.7	
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
計																					
平均																					
範囲																					
成長量指数	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	

注 1. 計測単位は、胸高径 cm、根元径 () 容 ■とする

成長量調査記録カード

1. 分類 指示 2. 分類別号

3. 実験項目		4. 林小班 (女)										5. 面積 0.10		6. 樹種 入キ		7. 品種		8. 標本数 225本		設定年月 56年3月		
調査木 区 分 木	肥大成長量										上長成長量											
	胸高(根元)径					成長量					樹高					成長量						
	設定時	S 56年11月	S 57年11月	S 58年11月	S 年月	S 年月	S 年	S 年	S 年	S 年	S 年	設定時	S 57年11月	S 57年11月	S 58年11月	S 年月	S 年月	S 年月	S 年	S 年	S 年	S 年
1	普通苗	25本																				
2	(8.1)	(13.3)	(17.5)				(8.4)					61.2	70.3	91.9					30.7			
3	栗竹田2号	1段根	25本																			
4	(7.9)	(10.7)	(14.4)				(6.5)					50.3	63.1	88.0					37.7			
5	"	多段根	25本																			
6	(8.2)	(11.9)	(16.5)				(7.3)					53.4	66.2	90.2					36.8			
7	栗竹田2号	1段根	25本																			
8	(8.4)	(11.5)	(14.6)				(6.2)					54.4	64.7	85.2					30.8			
9	"	多段根	25本																			
10																						
11	(8.6)	(11.9)	(15.0)				(6.4)					51.2	59.2	81.8					30.6			
12	栗竹田3号	1段根	25本																			
13	(8.7)	(11.4)	(14.7)				(6.0)					51.0	61.7	78.7					27.7			
14	"	多段根	25本																			
15	(9.0)	(11.1)	(14.7)				(5.7)					53.1	59.3	78.8					25.7			
16	アヤ不和	1段根	25本																			
17	(9.3)	(11.6)	(14.4)				(5.1)					50.9	61.3	73.0					22.1			
18	"	多段根	25本																			
19	(9.1)	(11.1)	(16.3)				(7.2)					53.1	57.0	76.7					23.6			
20																						
計																						
平均																						
範囲																						
成長量指数	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%

注 1. 計測単位は、胸高径 cm、根元径 () 書 mmとする

様式 2

昭和 54 年度 技術 開発 実施 計画 報告 書

熊本 営林(支)局

課 題 目 的	継続 新規	継続	経 常 特 別	経 常	担 当	造林課	開 発 箇 所	期 間	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額	
	1-(*)					技術調査	南 城 郡 長 崎 支 所	自53年度 至57年度			物件費	発根促進剤, スライダ, 樽, 板 鋸, 鋸用器具, フィルム 40他			千円	
	植栽木の林地における初明成長は多岐根苗の良好である事から多岐根苗木の林地における成長についてその関係と明らかにし育苗技術を検討する。											役務費	スライド, 現像液 付			
												人件費	臨時	192人		
												計				

全 体 計 画	実 施 経 過	当 年 度 分		評 価 お よ び 普 及 計 画																																																								
		実 施 計 画	実 施 結 果																																																									
1. 試験地の設定 (1) 育苗試験 多岐根苗を目的とした育苗方法 (2) 林地植付試験 多岐根苗の林地植付後の成長量等の検討	53年度 1. 試験地の設定 (1) 多岐根苗の育苗を目的とした 挿付と実施 (2) 既成苗の中から多岐根苗を 選苗し、林地植付を実施	1. 試験地の設定 大分 2. 育苗試験 --- 南城, 都城, 長崎 3. 林地植付 --- 南城, 都城, 長崎 大分, 鹿屋 4. 成長量調査 5. 作業工程調査	1. 育苗試験 スギ, 桧木をクローン別に多岐根苗の 育苗を目的とした処理を行い, 多岐根の発生状況を調査。 53年度挿付けたものについては 54年度調査を実施した。 また, 54年度は前年度と同じ方法 で育苗試験地を設定。	苗木育成については 特記すべき差異は 認められないが、ま た評価するまでに いたっていない。																																																								
<table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>年度</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>56</td> <td>57</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>試験地設定</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>育苗試験</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>林地植付</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>既成苗による 林地植付</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>成長量調査</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>作業工程調査</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	項目	年度	53	54	55	56	57	58	試験地設定		○	○	○				育苗試験		○	○					林地植付			○	○				既成苗による 林地植付		○						成長量調査			○	○	○	○	○	作業工程調査		○	○	○						2. 林地植付 多岐根苗の林地植付後の成長状 況を調査。 53年度は既成苗の中から多岐根苗 を選苗, 植付し, 54年度調査を 実施した。 また, 54年度は育苗試験により 養苗した苗木による林地植付試 験地を設定。	
項目	年度	53	54	55	56	57	58																																																					
試験地設定		○	○	○																																																								
育苗試験		○	○																																																									
林地植付			○	○																																																								
既成苗による 林地植付		○																																																										
成長量調査			○	○	○	○	○																																																					
作業工程調査		○	○	○																																																								

(指示課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課題	継続別 新規	継続	経常別 経常 1-ア	担当 造林課	開発箇所 長崎地 方 都 府 鹿 屋	期 間 昭和 53年度 ～ 昭和 60年度	予算 科目 目	技術 開発	経費	品名	数量	単価	金額 千円
	スギ之し苗木の発根形態別生長試験		物件費						調査用品				
目的	多段根苗は普通苗に比較し、良い初期生長を示す傾向がみられるので、 多段根苗と生長との関係の究明と多段根着苗の技術を開発する。								役務費	現像・焼付			
									人件費	臨時(基)	(11)人 30		()
									計				

全体計画	実施経過	当年度分		
		実施計画	実施結果	評価および普及計画
1. 育苗 (1) 発根促進 ① キズ付別 ② 発根促進剤 (2) 調査事項 ① 多段根苗得苗の調査 ② 生長量調査 ③ 気温及び地温 2. 林地植付 (1) 多段根苗及び普通苗の植付 (2) 調査事項 ① 活着率調査 ② 生長量調査	1. 昭和53年度 (1) 多段根苗育苗(昭和54年3月植付) 菊池、都城、長崎苗畑 (2) 既成苗の中の子多段根苗を選苗し林地植付(昭和54年3月植付) 菊池、都城、長崎、大方、鹿屋。 2. 昭和54年度 (1) 多段根苗育苗(昭和55年3月植付) 長崎、菊池、大方、都城 (2) 林地植付(昭和55年3月植付) 昭和53年育苗の多段根苗を林地植付。 (3) 育苗及び林地植付地の生長量等の調査。 3. 昭和55～56年度 (1) 林地植付(昭和56年3月植付) (2) 昭和53～55年度植付地の生長量調査。	1. 昭和53～55年度に林地植付箇所についての調査 (1) 活着率調査 (2) 生長量調査 (3) 調査結果の分析	活着率及生長量調査を行ったが、多段根苗と普通苗との差異は認められなかった。	

(指示課題)

昭和59年度技術開発実施報告書

課 題	継続 計画 別	継続	経常	担 当	課 目	開 発 所	長 崎 池 分 城 屋	期 間	昭和 59年度 ～ 昭和 60年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経費	品名	数量	単価	金額
			特別 経費 の 内 容									1-1工				
題					造林課							物件費	調査用品			
目的												労務費	現像焼付			
					多段根苗は普通苗に比較して、良い初期生長を示す傾向がみられるので、多段根苗と生長との関係の究明と多段根苗育苗の技術を開発する。							人件費	(基取) 写真	(18)人 23		()
												計				()
全体計画		実施経過		当年度分												
				実施計画	実施結果	評価および普及計画										
<p>1. 育苗</p> <p>(1) 発根促進</p> <p>ア. 傷付別</p> <p>イ. 発根促進剤</p> <p>(2) 調査</p> <p>ア. 多段根苗の調査</p> <p>イ. 生長量調査</p> <p>ウ. 気温及び湿度</p> <p>2. 林地植付</p> <p>(1) 多段根苗及び普通苗の植付</p> <p>(2) 調査事項</p> <p>ア. 活着率調査</p> <p>イ. 生長量調査</p>		<p>1. 昭和53年度</p> <p>(1) 多段根苗育苗(昭和54年3月植付) (長崎、菊池、都城、鹿屋苗田)</p> <p>(2) 既成苗の中より多段根苗を選別し林地植付(昭和54年3月植付) (長崎、菊池、都城、鹿屋苗田)</p> <p>2. 昭和54年度</p> <p>(1) 多段根苗育苗(昭和55年3月植付) (長崎、菊池、都城、鹿屋苗田)</p> <p>(2) 林地植付 昭和53年度育苗の多段根苗を林地植付。</p> <p>(3) 育苗及び林地植付の生長量等の調査。</p> <p>3. 昭和55年度</p> <p>(1) 多段根苗育苗(昭和56年3月植付 都城苗田)</p> <p>(2) 林地植付(昭和56年3月植付) 昭和54年度育苗の多段根苗を林地に植付</p> <p>(3) 生長量等の調査</p> <p>4. 昭和56年度</p> <p>(1) 林地植付(昭和57年3月植付都城苗田)</p> <p>(2) 生長量等の調査</p> <p>5. 昭和57～58年度</p> <p>(1) 生長量等の調査</p>		<p>1. 昭和53～58年度に林地植付箇所について調査。</p> <p>2. 調査結果の検討</p>	<p>1. 生長量調査</p>											

(指示 課題)

昭和 59 年度 技術開発実施 報告書

菊池 富雄 著

課題	継続別 新規	継続	経常 指示	担 当	水原(担)	開発箇所 水原(地)	研究内容 85. 4. 1. 林産 23. と	期 間 56 ~ 60	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
											物件費	カマドノコ			千円
目的											役務費	現場-21			
											人件費		3 人		
											計				
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分											
				実 施 計 画				実 施 結 果				評価および普及計画			
<p>多段根苗は普通苗に比較して良し初樹成長を示す傾向がみられ、この多段根苗と成長との関係の究明と多段根苗養成の技術を普及させる。</p>		<p>53. - 54年度に多段根の養成技術として、この木穂作り等の過程で横傷又は縦傷をいれ、この付に養根の効果を調査した。</p> <p>50年54-55年度に林地に枯付実施して、一段根多段根、対照区の成長比較を行うため成長調査を59年度に実施した。</p>		<p>対照地 - 一段根多段根 対照区毎に上長、肥大 成長をそれぞれ小調査実施した。</p>				<p>54-55年度に枯付実施した対照地から55-59年度に成長量の調査を継続して、55年5月、56年5月、57年5月、58年5月、59年5月の調査結果、23. と村小畑に7-7月、上長、肥大と一段根の成長をそれぞれ調査して、54年5月、55年5月、56年5月、57年5月、58年5月、59年5月の調査結果、対照区は多段根が優位にある。</p> <p>4. 村小畑に成長差は年々認められる。</p>							

※ (課題)欄は指示、指導管理、自主、任意、別を記入する。
 目標との関連欄は、延平宮林局技術開発目標(59.総計第188号)により記号で記入する(例 1-(ア))